

u/l, 胃癌 $697 \pm 1,068$ u/l, 結腸直腸癌 309 ± 271 u/l, 肝細胞癌 329 ± 477 u/l, 胆管胆囊癌 431 ± 293 u/l, 脾癌 298 ± 229 u/l, 乳癌 303 ± 634 u/l, 卵巣癌 449 ± 907 u/l, 前立腺癌 182 ± 90.6 u/l, 膀胱癌 329 ± 240 u/l, 白血病 $1,386$ u/l, $1,531$ u/l で、特に転移が明らかな症例で高値を示す傾向が顕著であった。ところが、甲状腺癌 141 ± 167 u/l, 子宮癌 101 ± 22.5 u/l, 睾丸腫瘍 102 ± 68.2 u/l, 悪性リンパ腫 95.9 u/l と健常人と差の認められない疾患もあった。また、良性疾患群(143例)では、慢性腎不全で 176 ± 57.5 u/l と有意に高い成績であったが、他の疾患では健常人と差が認められなかった。また、妊婦では 371 ± 341 u/l と高値であった。一方、肺癌1例とS字状結腸癌1例の計2例では臨床経過中の血中TPA値を測定観察したところ病態の増悪とともに血中TPA濃度が上昇し、同時に測定した血中CEA値と同様の変動を示した。そこで血中CEA値を測定した症例のうち142例では同時に血中TPA値も測定し両者を比較したところ $r = +0.423$, $y = 13.9 \pm 109$ と危険率5%で有意に相関した。また、肝細胞癌3例では臨床経過中の血中TPA値を測定観察したが、一定の成績はえられず、また血中AFP濃度とも異なる動きであった。

8. NCA の Radioimmunoassay に関する研究(I) 血中NAC測定について

浜津 尚就	(滋医大・放)
浦 恭章	越智 幸男 (同・中検)
細田 四郎	(同・二内)
宮崎 忠芳	(京府医・放)
梶田 芳弘	八谷 孝 (同・二内)

CEA like-antigenとしてNonspecific Crossreacting Antigen(NCA, MW 60000)をHammarströmより入手し、その免疫学的検討を行うとともにRadioimmunoassayを試みた。

NCAは、市販CEA抗体の何れとも交叉反応を示すが、通常assayで使用する濃度では、わずかしか認められない。 α_1 -AG抗体との反応では、NCA, CEAともに高い交叉性が認められた。NCAをウサギに免疫して得た自家製の抗NCAウサギ血清は、4,000倍希釈した時にRoche standardのCEAと交叉反応率は、約12%であった。次にわれわれの開発したPEGを分離法とするNCA(MW60000)のRadioimmunoassayでは、50~

2,000 ng/mlまで測定可能であり、良好なstandard curveが得られた。健常人39名の血中NCA値は、 $105 \sim 285$ ng/mlに分布し、mean $\pm 2SD$ より正常範囲を $85 \sim 300$ ng/mlと設定した。血中CEA 5 ng/ml以上の癌患者40例のCEA値とは、相関係数0.354で相関は認められなかった。

結論:

- 分子量60000のNCAは、 α_1 -AG抗体と免疫学的に交叉反応を示すことを確認した。
- 健常人の血中NCA値は、 $85 \sim 300$ ng/mlであった。
- 血中NCA値は、血中CEA値と相関は認められずCEAのように有用な腫瘍マーカーとは思われない。

9. 原発性肝がんの血清フェリチン

中野 俊一	長谷川義尚	井深啓次郎
橋詰 輝己	鈴口 敦司	

(大阪府立成人病セ・アイソトープ診療科)

われわれは原発性肝がんにおける血清フェリケン(Ft)の臨床的意義をしらべた。症例は昭和57年4月より58年3月までの1年間に ^{67}Ga スキャンを行った症例のうちの65例である。原発性肝がん33例のうち、組織学的診断の行われたのは12例で、その他の原発性肝がんおよび肝硬変32例は臨床的に診断された。血清Ftの測定はリアグノストフェリチン(ヘキスト社)を用いて行った。血清鉄は松原法、不飽和鉄結合能(UIBC)はラムゼー法によった。正常例の血清Ftは男子60例の平均値 $\pm SD$ は 135.8 ± 75.5 ng/ml、女子60例では 78.5 ± 53.7 ng/mlであった。健常男子の平均値 $\pm 2SD$ 以上を異常値とするとき原発性肝がん33例中異常値を示したのは20例(61%)で平均値は 600 ± 697 ng/mlであった。アルファフェトプロテイン(AFP)が 400 ng/ml以上であったのは21例(64%)で、 400 ng/ml以下の12例中血清Ftが高値を示したのは7例であった。5例(15%)では両者いずれも增量を示さなかった。また両者の間には一定の関係をみとめなかつた。一方肝硬変について血清Ftをみると32例中、高値を示したのは14例(44%)でその平均値は 411 ± 415 ng/mlであった。肝硬変においては血清FtはGOTとは相関せず、血清鉄との間に正の相関($r=0.39$)、UIBCとの間に負の相関($r=-0.71$)がみられた。原発性肝がんにおいては3例で、血清Ftは2,000 ng/ml以上の著